

経営比較分析表（令和4年度決算）

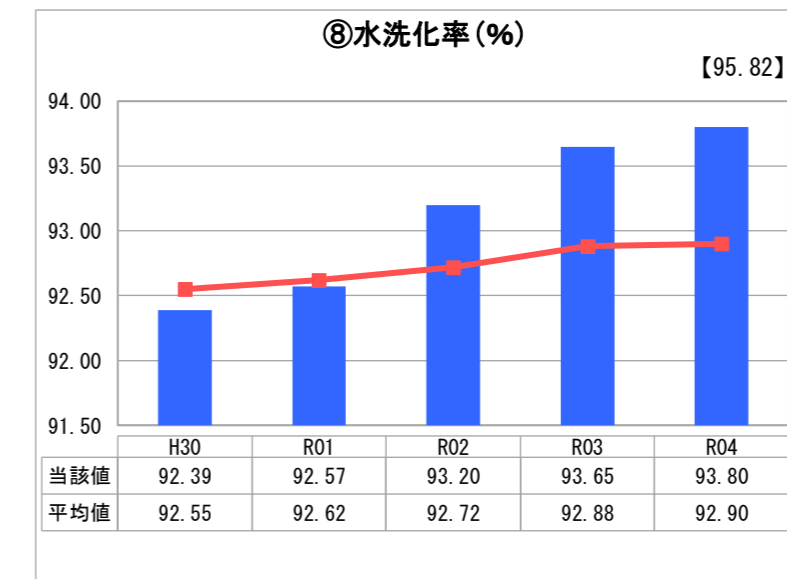
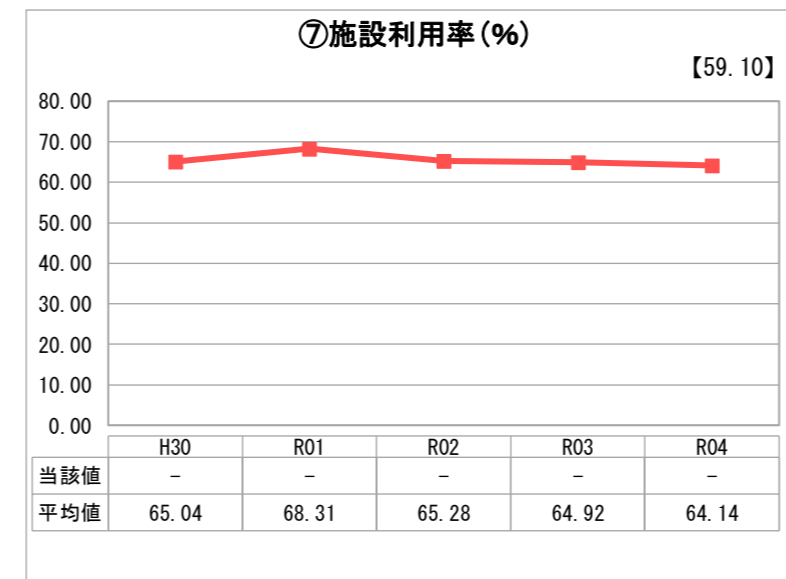
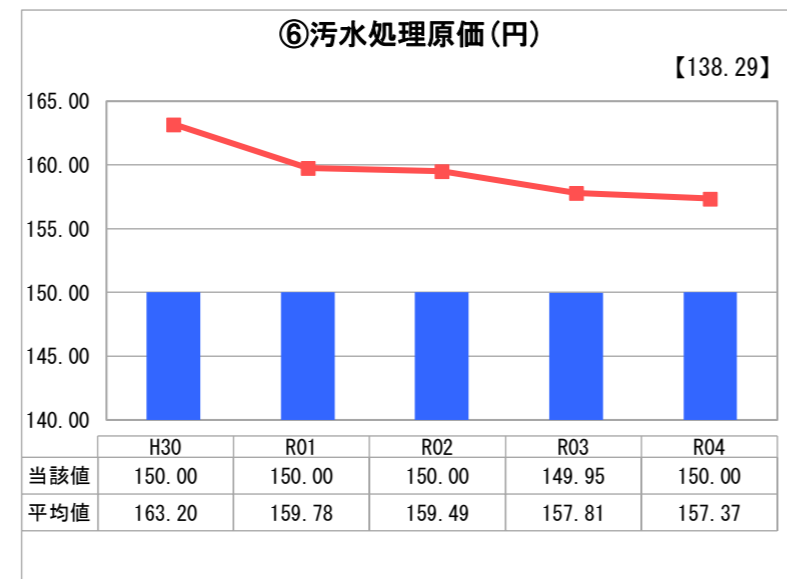
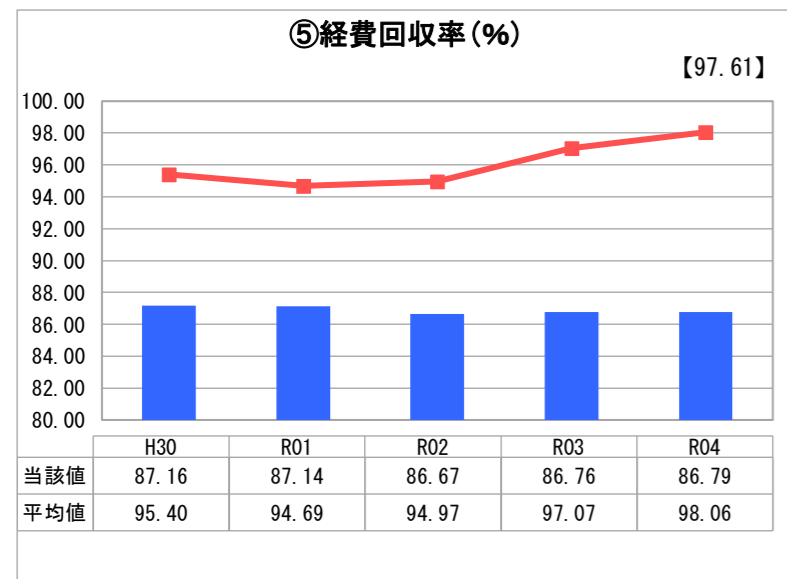
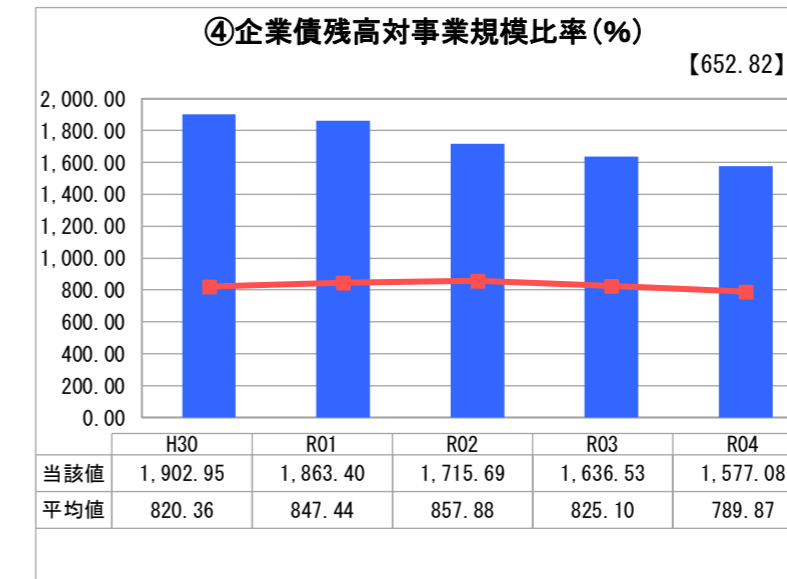
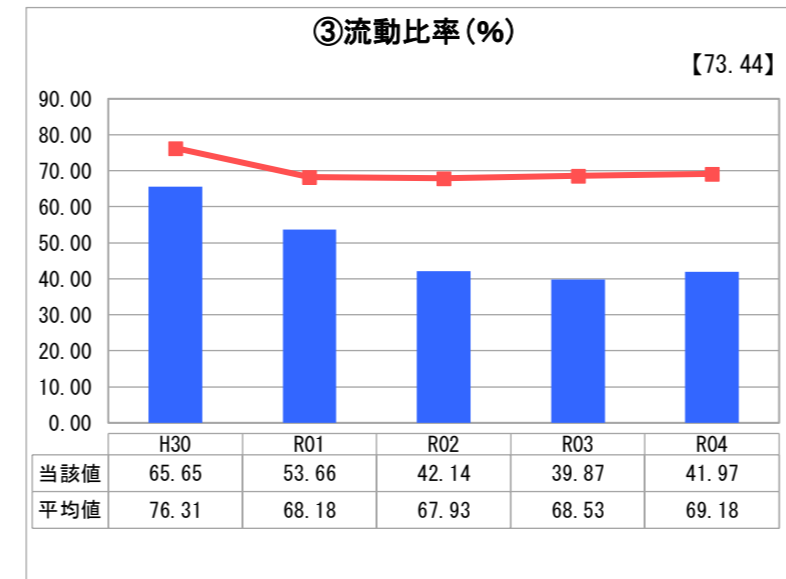
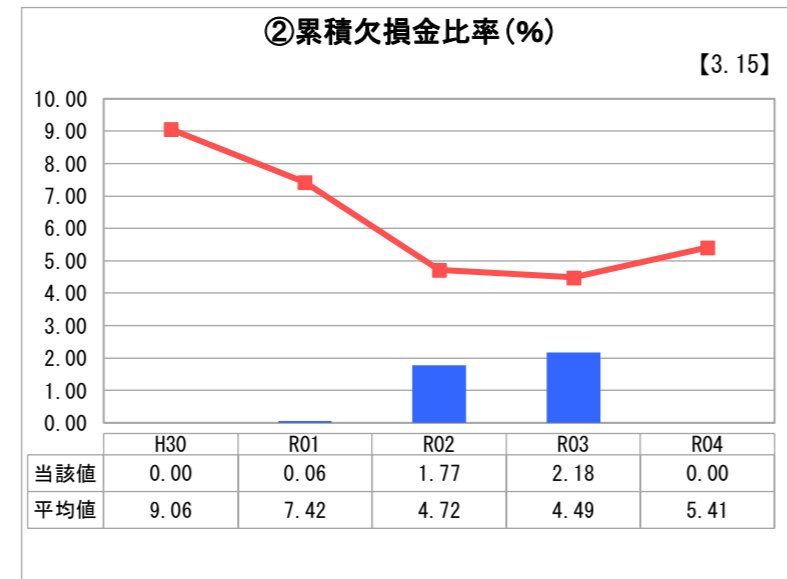
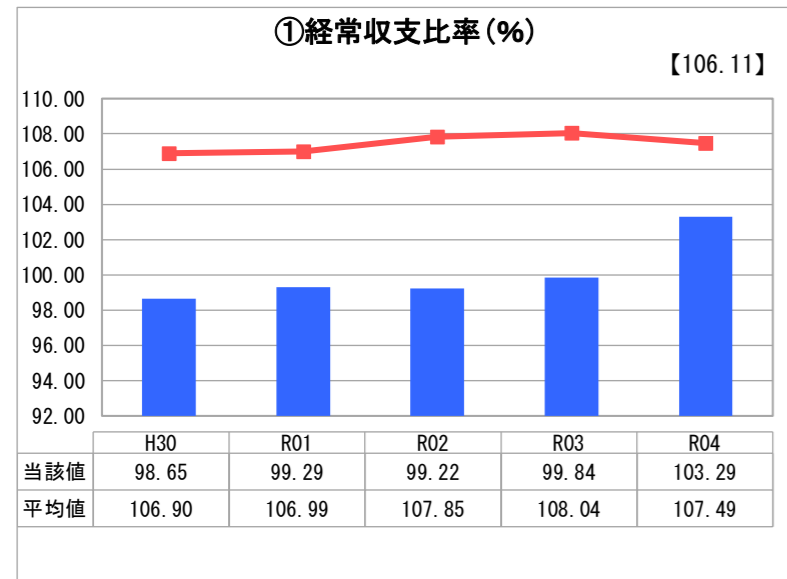
福井県 坂井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	52.93	95.60	89.56	2,530

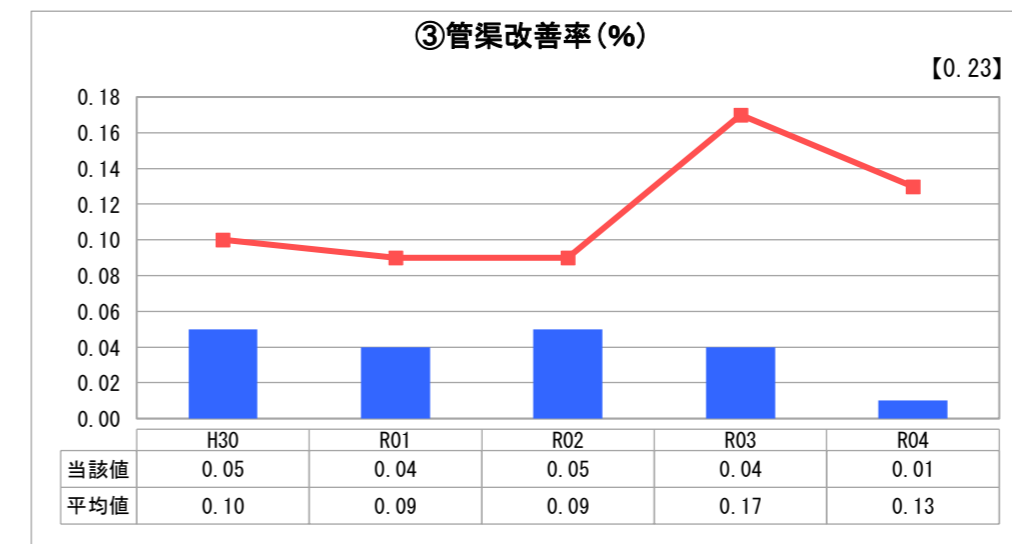
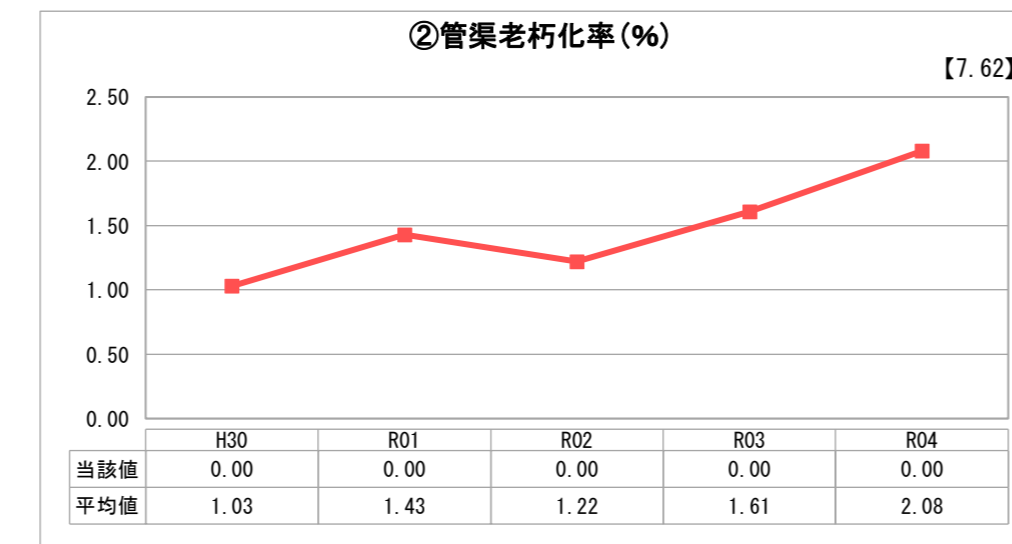
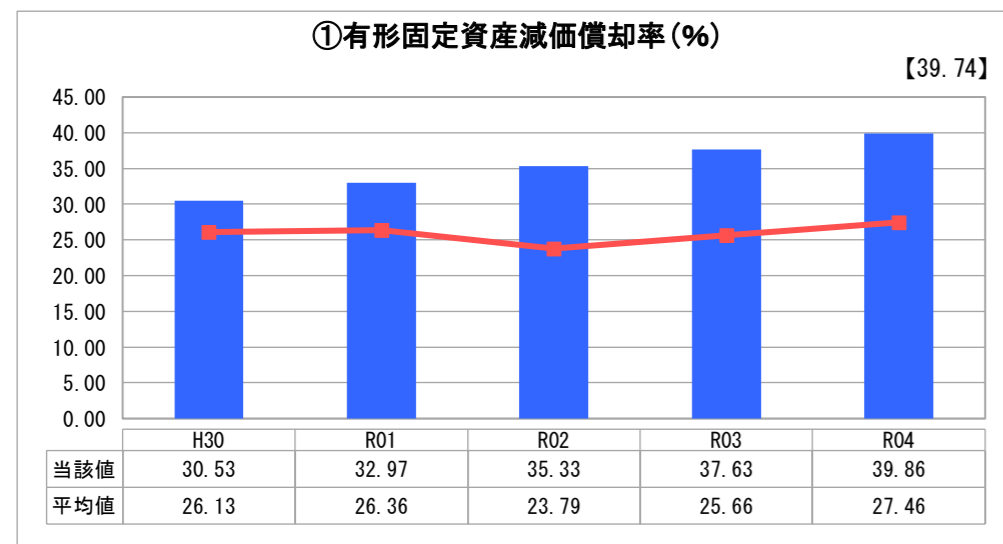
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
89,369	209.67	426.24
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
85,182	28.26	3,014.23

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 人口減少や使用水量の減少傾向により使用料収入は前年度より減少している。一般会計からの繰入金を増額したため結果的に数値は改善している。
- 平成29年度より続いている赤字で、累積欠損金が発生したが、一般会計からの繰入金を増額したため解消された。
- 流動比率は企業債償還額は依然として大きい平均値より低いが、徐々に企業債償還額は減少傾向にはあるため今後も改善していくと思われる。
- 企業債残高対事業規模比率は微減しているが、新規借入より企業債の償還が完了
- 経年劣化による施設の故障等で維持管理費用が増大していることが経費回収率を下げていると思われる。
- 不明水が増えると処理費用も増えるので対策を講じたい。
- 当市は終末処理場が無いので数値は発生しない。
- 下水道整備はほぼ終了しているが今後も水洗化促進に努めていきたい。

2. 老朽化の状況について

- 整備事業がほぼ終了し、耐用年数に近づいている固定資産が増えてきていることから減価償却率が上昇している。
- 法定耐用年数を経過した管はない。
- ストックマネジメント計画に基づき計画的な施設の更新、改築を行っていく。

全体総括

現状、下水道整備がほぼ終了しており、受益者負担金収入の頭打ち、人口減少に伴う使用料収入が減少している。経費削減には努めているが収入が施設に係る支出に対応できなくなってきている。供用開始から40年以上経過し、施設の老朽化が進み、今後は施設更新・耐震化工事に多額の費用が必要となる。公共水域の保全に努め、市民に安心安全なサービスを提供する為にも、適正な料金設定による料金収入を確保し、経営改善を図る必要があり、令和6年4月からの料金改定を予定している。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。